

Works  
Report

2016

# 高校生の基礎的・汎用的能力を測定する ルーブリックの手引書

中間報告



# 目次

- はじめに。  
本報告書作成の目的・使用の際の注意点・・・3
- なぜルーブリックで評価するのか  
－学力テストでは測定できない能力の測定・・・4
- ルーブリック評価の特徴・・・5
- 2種類のルーブリック評価  
－コモンルーブリックとクラスルームルーブリック・・・6
- 実施に際して・・・7
- 結果の使い方  
－組織目標と個人目標の設定・・・8
- ＜参考＞学校別の結果・・・9
- ＜参考＞ルーブリックで測定している基礎力と下位項目・・・10



# はじめに。 本報告書作成の目的・使用の際 の注意点

## 本報告書作成の目的

このたび、1年半をかけて公立高校7校と共同研究を実施しました。共同研究ではこれまでに測定が困難だとされてきた、基礎力について、ルーブリック形式で調査票を作成し、基礎力の「伸び」のプロセスを可視化することにしました。

本報告書では、この共同研究の一連のプロセスをまとめています。

報告書を作成・公開する目的の1つは、高校現場で実施が難しいとされてきた基礎力の育成を促進する際の、学校目標の設定・各生徒の個人目標の設定のための方法の共有です。

今後、生徒の現状把握や目標設定のためのツールの1つとして、ご活用ください。

また、こうした調査の結果を高校でどのように活用するのか、その活用方法について、今後事例を蓄積する予定です。これまでの学力テストでは測定できない基礎力について、どのように学校生活の中で身に付けるのか、そのためにどのような方法があるのかについて引き続き検討したいと考えています。

## 使用の際の注意点

今回調査で実際に使用したルーブリック評価表(学校生活に関するアンケート)をPDFで掲載しています。ルーブリック評価トライアルの協力校での調査結果を受けて現在改良中です。ご使用になる場合は、メール([works@r.recruit.co.jp](mailto:works@r.recruit.co.jp) , 件名「ルーブリック評価」)でご連絡ください。

ご不明点、資料の使い勝手に関するフィードバックについても気軽にご連絡ください。



# なぜルーブリックで評価するのか —学力テストでは測定できない能力の測定

## 求められる基礎的・汎用的な能力の育成

グローバル時代の到来を背景に、ジェネリックスキル、基礎力、社会人基礎力、基礎的・汎用的能力、21世紀スキルといった、学力テストだけでは測定できない「基礎力」に対する質的保証がいつそう期待されるようになっていきます。平成24年8月に公表された中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」では、具体的な「学修成果」を見直すことが提言されており、政策的要請として、到達目標の明確化といったアカウンタビリティについての議論が進められてきています。そして、こうした動きは大学だけでなく、平成35年以降のいわゆる「高大接続システム改革」を前に、一部の高校においても能力開発に向けた取り組みが始まっています。

## ルーブリック評価とは

ルーブリック評価とは、「ある課題について、できるようになってもらいたい特定の事柄を配置するための道具」です。「ある課題」をいくつかの要素にわけ、要素ごとに評価基準を満たす「段階」、つまり、「伸びのプロセス」を記述したものだとお考えください。



# ルーブリック評価の特徴

## ルーブリック評価の強み～力をつけるプロセスの明示

学力テストや外部テストでは「到達した結果の状態」を評価しますが、ルーブリックは、結果だけでなく、そこに至るプロセスについて段階を示し、説明しているものです。つまり、ルーブリック評価の内容を生徒と共有することで、生徒はゴールに向けたプロセスをイメージすることができます。

		プロセス 				
		1	2	3	4	5
相互支援		集団活動の時、ほかの人が困っていることに気がつかないことが多い	集団活動で困っている人から頼まれたら、手を貸すことができる	集団活動の時、人に手を貸すこともできるし、自分が困っている時は素直に手を借りることもできる	集団活動の時は、自分のことだけでなく、周囲の状況に気を配ることができる	集団活動の時は、周囲を励まし、メンバーのやる気を高めようとする



- 段階を上げるためのプロセスがわかる
- 段階を上げるための行動目標・計画が立てやすい



# 2種類のルーブリック評価 ーコモンルーブリックとクラスルームルーブリック

## コモンルーブリックとクラスルームルーブリック

ルーブリックには、大きくわけて2種類あります。どのような学校でも共通して使うことができる「コモン(共通化された)ルーブリック」と課題・科目・クラス単位で個別に作成される「クラスルームルーブリック」です。今回の共同研究でおこなったのは、「コモンルーブリック」の作成です。

## クラスルームルーブリックの作成

コモンルーブリックとは別に、自分のクラスで達成したい基準や目標があれば、別添のルーブリック評価シートを参考に、生徒の状況にあわせて「クラスルームルーブリック」を作成してみてください。作成の時には、卒業時点での生徒のゴールの状態を前提に、そこに至るまでのプロセスを言葉にします。

## クラスルームルーブリック作成方法(例)

筆者が以前ある高校で教員らと一緒にとおこなったのは、高校3年間で生徒に獲得してほしい能力について、1年生・2年生・3年生の各段階におけるレベルを設定し、設定したレベルにあわせて、能力の段階を示すというものです。この時のプロセスを以下にご紹介します。

(1)学校の教育目標から生徒に獲得させたい能力を言語化します。最初は、「自分のやりたいことをもつ」「社会への貢献の在り方を明確にする」「協力して物事を進めることができる」「課題を発見する」などがあがりました。

(2)次に、それらが「達成できたかどうか」がわかるように書き換えます。

例)「XXをはぐくむ」⇒「〇〇ができる」

(3)1つずつ名刺サイズのカードに書き込み、各学年の代表者も一緒に見ながら、1年生、2年生、3年生の各学年をイメージしながら、各学年のゴールの状態を言葉にして、3段階のルーブリックを作成します。

作成時の校内写真が掲載されています。書きリンク先のP16をご覧ください。

[http://www.works-i.com/pdf/r\\_000330.pdf](http://www.works-i.com/pdf/r_000330.pdf)

(4)1年生・1年生から2年生・2年生・2年生から3年生・3年生のプロセスの隙間を埋めるように、5段階のルーブリックに展開します。

ルーブリック作成は、どのような課題を達成したいのか(目標)、生徒の達成プロセスはどのようなものか(目標までの道筋)を考えるとところからのスタートです。



# 実施に際して

## ルーブリックの記入時間は、約20分

ルーブリックの実施時間を確保します。記入時間は、SHRや授業時間の一部を使っておこなわれました。所要時間は15分～20分です。

## 実施方法

別添の「学校アンケート」(＝ルーブリック評価シート)をプリントアウトしてお使いください。

各校でお持ちのマークシートに記入する形でお使いいただき、生徒の出席番号で1回目と2回目のデータを紐づけた上で、1回目と2回目の差から、生徒の変容を確認しました。

生徒ごとの変容を確認なざりたい場合は、出席番号を記入した上で、一人ずつ変化の傾向を確認します。

## 実施時期

研究協力校では、年に2回おこないました。学校によって実施時期は異なります。2回目の実施は、基本的に、1回目の実施の6か月後におこないました。



# 結果の使い方

## ー 組織目標と個人目標の設定

### 学校組織として強い分野、今後伸長が期待される分野を把握し、基礎力獲得のための経験機会を作る

生徒たちの基礎力の傾向(強みや伸長が期待される分野)の把握、教員間での認識の共有にお使いください

特に、「今後伸長が期待される分野」については、集団活動の中で基礎力を獲得できるよう、各生徒に応じた役割機会を検討する場を設けます。

例)トリアル時には、発言力の伸びを狙った授業の見直し、協働力の向上を狙った授業での課題提示のあり方を見直し、同じく協働力の向上を狙った学校行事のやり方の再検討などの報告がありました。

### 生徒個人の目標設定と振り返りに活用(今後)

生徒に学年の平均値を共有した上で、個人の目標設定を生徒自身ができるようにします。どれくらいできたのか、振り返りの際に活用します。

生徒による目標設定

結果の返却

振り返りと次年度の目標設定



# 参考：学校別の結果 基礎力保有状況の変化 (1回目と2回目の比較)

1回目と2回目の調査結果から生徒ごとの変化を確認しました。

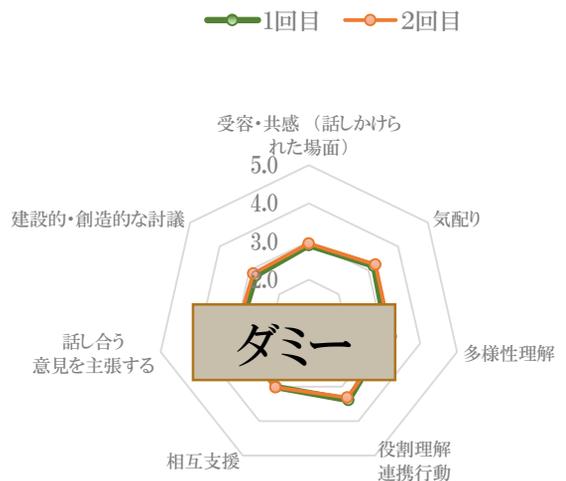
「赤字」は伸びたことが統計的に確認された項目。「青字」は、低下したことが確認された項目です。

表1

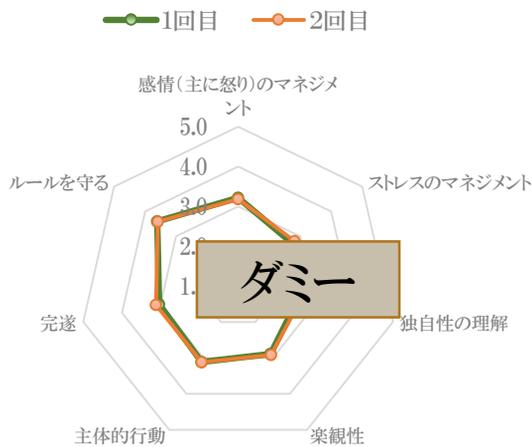
基礎力no	基礎力項目	1回目	2回目	有意確率
対人1	受容・共感（話しかけられた場面）	2.91	2.95	.06
対人2	気配り	3.19	3.24	.15
対人3	多様性理解		2.21 ↑	.01 **
対人4	役割理解連携行動		2.91 ↓	.01 *
対人5	相互支援		2.02	.80
対人6	話し合う意見を主張する		2.00 ↑	.00 **
対人7	建設的・創造的な討議		2.87 ↑	.02 *
対自己1	感情(主に怒り)のマネジメント		2.18	.26
対自己2	ストレスのマネジメント	2.74	2.82 ↑	.03 *
対自己3	独自性の理解	2.54	2.61 ↑	.01 *
対自己4	楽観性	2.89	2.91	.44
対自己5	主体的行動	3.11	3.12	.86
対自己6	完遂	2.94	2.12 ↑	.01 **
対自己7	ルールを守る		2.59	.66
対課題1	情報収集		2.42 ↑	.01 **
対課題2	本質理解		2.08 ↑	.01 *
対課題3	目標設定		2.54	.67
対課題4	シナリオ構築		2.45	.91
対課題5	行動を起こす	3.12	3.05 ↓	.01 **
対課題6	修正・調整	2.96	2.93	.52

\*<.05, \*\*<.01

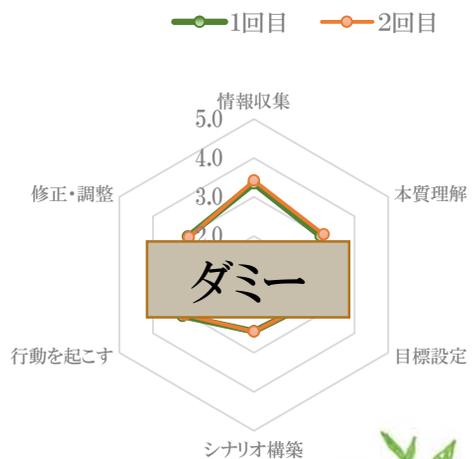
対人基礎力



対自己基礎力



対課題基礎力



# 参考：本ルーブリックで測定している 基礎力と下位項目



# 「高校生の基礎的・汎用的能力を測定するルーブリックの手引書」中間報告書

## 調査・分析

辰巳哲子(リクルートワークス研究所 主任研究員)

## 研究協力

調査実施にご協力いただいた高校(50音順)

岩手県立大野高等学校

岩手県立盛岡第三高等学校

岐阜県立大垣北高等学校

岐阜県立岐山高等学校

静岡県立韮山高等学校

静岡県立浜松北高等学校

福岡県立城南高等学校

田村知子(岐阜大学大学院教育学研究科 准教授)

松村直樹(株式会社リアセック 代表取締役)

## アシスタント

森千恵子(リクルートワークス研究所)

## デザイン

鈴野麻衣

本冊子記事の無断複製転載を禁じます。

Recruit Holdings Co.,Ltd. All right reserved

